

一般社団法人日本家政学会
被服心理学部会 40 周年記念誌

2023 年 12 月

被服心理学部部会

目次

挨拶	辻 幸恵	p. 1
部会員からのメッセージ		
被服心理学部会に携わって	内田 直子	p. 2
デジタルファッションと被服心理	江良 智美	p. 3
被服心理学部会での思い出	大枝 近子	p. 4
被服心理学との出会い	小野寺 美和	p. 5
被服心理学部会と私	加藤 千穂	p. 6
博物館資料と被服心理学	金井 光代	p. 7
部会活動の思い出	小林 茂雄	p. 8
教育心理と被服心理	薩本 弥生	p. 9
被服心理学部会の 40 周年を祝して・所感	佐藤 悦子	p. 10
「被服心理学部会との思い出」と「最近の被服心理」について	孫 珠熙	p. 11
被服心理学の視点から研究・教育活動をふりかえる	谷 明日香	p. 12
被服心理学と私	田村 和子	p. 13
部会の思い出	辻 幸恵	p. 14
被服心理学研究と私～研究成果の応用・展開～	内藤 章江	p. 15
被服心理学部会と私	原田 妙子	p. 16
被服心理学部会の今後	藤田 雅夫	p. 17
被服心理学の発展を願って	松岡 依里子	p. 18
被服心理学部会の発展を祈念して	渡辺 澄子	p. 19
40 年までの過去 10 年間のセミナーの歩み		p.20-41
30 周年記念 平成 25(2013)年度 夏季セミナー		
平成 25(2013)年度 春季セミナー		
平成 26(2014)年度 夏季セミナー		
平成 26(2014)年度 春季セミナー		
平成 27(2015)年度 夏季セミナー		
平成 27(2015)年度 春季セミナー		
平成 28(2016)年度 夏季セミナー(合同セミナー)		
平成 28(2016)年度 春季セミナー		
平成 29(2017)年度 夏季セミナー		
平成 29(2017)年度 春季セミナー		
平成 30(2018)年度 夏季セミナー		

平成 30(2018)年度 春季セミナー
令和元(2019)年度 夏季セミナー
令和元(2019)年度 春季セミナー(中止)
令和 2(2020)年度 春季セミナー
令和 3(2021)年度 夏季セミナー
令和 3(2021)年度 春季セミナー
令和 4(2022)年度 夏季セミナー
令和 4(2022)年度 公開春季セミナー
令和 5(2023)年度 夏季セミナー
令和 5(2023)年度 春季セミナー(予定)
令和 6(2024)年度 夏季セミナー(予定)

動画原稿部会紹介 被服心理学部会

p. 42-53

被服心理学部会会長(2013 年度～)



被服心理学部会設立 40 周年をむかえて

部会長 辻幸恵（神戸学院大学）

1984 年に発足した本部会の 40 周年のお祝いを申し上げます。今年は被服心理学部会の長い歴史の中の節目の年になりました。前回の 30 周年記念誌の最初のページの上段にはセミナー参加者のカラー写真が掲載され、下段にはその時の藤原康晴先生のご講演の写真が掲載されていました。これらの写真は第 30 回被服心理学部会 30 周年記念夏セミナーのもので、30 周年の時の部会長は石原久代先生でした。

近年は部会のホームページも充実してきました。そのホームページの部会紹介の中には部会からのメッセージとして以下のように記載されています。「本部会は、1984 年初代部会長、故田中道一先生をはじめ、諸先生方の尽力により発足いたしました。当時は被服心理学が被服学の新しい分野として、アメリカからわが国へ導入されて間もない頃でした。」ここからいかに早い時期に本部会が活動をはじめたのかがうかがえます。また「被服に対するニーズは実用的な側面から心理的、社会的、審美的な側面、すなわちモノからココロへ移ってきていました。そこで被服心理学では、被服を社会科学・人文科学の視点から取り扱うことになる被服の心理的、社会的、審美的機能に関する教育、研究をその学問領域として位置づけています。」と続いています。被服の素材や機能といった物理的な面と、被服を見て感じる心理的な面の両輪をその学問領域としており、いわゆる文系にも理系にも通じる幅広い領域であることが示されています。

残念なことに最近には部会に所属しているメンバーが減少傾向です。この原因の一つには日本家政学会に限らず、学会という集団に所属する人々が減少していることも関係しています。母集団が減れば、どうしても部会の所属数も減るからです。また、日本の大学全体で家政学部や生活環境学部が増加せず、むしろ規模が小さくなっていることも原因だと考えられます。さらに私学になれば、日本の若者の減少、すなわち入学者人口の減少により、入学定員の確保が難しくなっています。そのため年間の入試回数が増えて、学会での活動時間の確保が困難になる場合もあります。

しかし、いつの時代でも、困難な問題はあります。ホームページの部会からのメッセージの最後には「既存の学問体系や社会の常識に固執することなく、常に時代の先を見通す学問として人々の役に立つことを第一と考え、身近な被服を題材に不易流行の被服心理学を究めていきたいと思います。被服心理学に寄せられるこれらの課題に対して、私たちは今後さらに研鑽を積み、教育に研究に積極的にアプローチしていきたいと思います。」と部会の趣旨が記載されています。これから先はこの趣旨に賛同してくれる研究者をひとりでも多く見つけていくことが重要かもしれません。

被服心理学部会に携わって

内田 直子（大妻女子大学）

被服心理学部会創立 40 周年おめでとうございます。ここまで続きましたのも、発起からその後の運営を担われた先生がたをはじめとする諸先輩がたの礎があったからこそと思っております。心よりお祝いと感謝を申し上げます。

この「記念誌」執筆も「20 周年」「30 周年」に続いて 3 回目になります。この 10 年間の後半期に、副部会長、部会長の仕事を仰せつかりました。ただご承知のように新型コロナの出現で、不測の事態にも遭遇しました。この時期の開催に関わりました 2 本のセミナーについて記録も兼ねて振り返ってみようと思います。

2019(R. 元)年度春季セミナーを予定しておりましたが、折しも新型コロナが始まり出した頃で様々な要因から止む無く中止を決定しましたが、その 2 年後、2021(R. 3)年度春季セミナーにて同内容を東京で開催する運びになりました。怪我の功名か、2 年前より内容もグレードアップしていただき全体テーマを「暮らしの中の消費者心理」とし、またオンラインで開催することで当初の対面時より 2 倍以上の参加希望者がありました。この時、部会員減少の現在、対面以外の方法にセミナー参加促進への一条の光が見えた気がいたしました。

2023(R. 5)年度夏季セミナーの企画では、40 周年の区切りであったため「衣」を扱う学問を家政学に留まらず、広い分野からもう一度見つめ直すことが必要ではないかという思いから、テーマを「“衣” 研究における隣接学問からのアプローチ ―被服学の未来を考える―」とし、建築学、社会学の視点からの講演、衣装の展示方法と保存・修復の紹介、異分野出身の部会員による事例報告としました。実際の講演は「衣」を扱いながらも切り口や異なる視点からの分析は非常に面白く、今後の参考になりました。また、お陰様で参加者も部会員のみならず、非会員のそれも遠方の学生も多数あり、まさに被服学の未来へ繋がるセミナーであったのではないかと思います。

今、手元にある 20 年前の「20 周年記念誌」を捲ってみますと、自分の書いた文末に【「被服学」と「その他の生活を考える様々な分野(学術、他)」との掛け橋的存在になれるよう、研鑽して参りたいと思います。】とあり、当時の思いが自分でも無意識のうちに今夏の夏季セミナーの企画に繋がったのかも・・・と思いました。

現在、勤務先でも「被服心理学」を担当しております。今も履修者多数の授業はオンデマンドの授業が続いておりますが、ようやく次年度から通常体制に戻ることにになりました。5 年ぶりに今一度私自身も原点に立ち返り、衣生活とは、被服とは、そして被服心理とは何かを問いながら、この部会で得たものを大切に、未来に続く可能性のあるものを後世に伝えていきたいと思っております。今後の本部会の益々のご発展をお祈りいたします。

デジタルファッションと被服心理

江良 智美（目白大学社会学部）

2023年度の被服心理学部会が創設40周年を迎える本年度に新規入会させていただきました。記念すべき年度にご入会をさせていただき、誠にありがとうございます。被服心理学について学び始めたばかりですが、近年話題になりつつある「デジタルファッション」と被服心理について、述べさせていただきます。

私は現在、デザイン学の視点から服飾に関する研究を進めております。その過程においてグラフィックソフトや3D CADソフトの使用頻度は年々高まり、今後はビッグデータの活用や機械学習なども用いた実験・調査を進める必要性を感じております。また、造形の過程では環境負荷等を考慮し、可能な限りコンピュータ上でバーチャルシュミレーションを行うことでことが多くなりました。服飾の世界においてもDXの活用は日進月歩であると感じております。

デジタルファッションはこうした状況から考えると、注目すべき研究テーマであると考えられます。デジタルファッションは主に、インターネット等の仮想空間上で用いられる服飾の総称です。メタバースやゲーム空間で操作するアバターやキャラクターが着装する衣服、ファッションブランドのNFT等を用いたデジタルファッション作品データなどが代表的事例であり、その売買はすでに始まっています。また、デジタルファッションで制作された衣服のバーチャルサンプルはファッション産業界でも多く用いられており、今後もその用途は高まっていくと考えられます。一方で、こうしたデジタルファッションに対する被服心理学的なアプローチ、考察の先行研究は未着手であると言えます。技術革新に伴って日々更新される情報を整理し、調査分析を行うべき事柄が山積みしているとも考えられます。

デジタルファッションは身体に纏うという人間が太古から習慣としてきた行動と大きく異なります。画面上に表現された衣服に対し、人々がどのような感情や印象を持つのか、被服心理学的な視点から調査・研究する重要性は非常に大きいと考えられます。今後、デジタルファッションと「着る」「装う」という人々の心の動きについて一つずつ解明を進めていき、広く学問の発展に繋がればと考えております。

被服心理学部会での思い出

大枝 近子（元目白大学）

被服心理学部会 40 周年、おめでとうございます。30 周年記念誌の編集に携わらせていただいてからもう 10 年経過したとのことで、本当に月日の経つ早さを感じております。これほど長く続いてきましたのも部会を立ち上げられた先生方をはじめ、それを引き継がれてきた部会員の皆様のご尽力の賜物だと思っております。新しい学問分野であった被服心理学が少しずつ浸透していったことは、微力ながら部会に携わらせていただいたものとしましては、感慨深いものがあります。

さて、私は平成 30 年度と 31 年度に部会長をお引き受けしました。平成 30 年度の夏季セミナーでは被服の消費者教育やファッション誌の消費者への影響、消費者心理と企業のマーケティング戦略など、被服を購入する際の消費者の心理についての講演を企画しました。特に、当時人気のあったファッション誌『VIVI』の編集長の方のお話は、実践に基づいたものであったため興味深く、もう少し多くの学生にも聞いてもらいたかった内容でした。2 日目の午後は花王ミュージアムの見学を行い、女性なら誰しも興味のある化粧品をはじめ花王の製品についてのさまざまなお話を伺うことができました。

平成 30 年度の公開春季セミナーはユニバーサルデザインについての 2 つの講演で、色彩や医療、ファッションの視点からユニバーサルデザインを考えるとというものと、京都市が取り組んでいる観光都市としてのユニバーサルデザインの可能性と課題をお話いただきました。現在、オーバーツーリズムが懸念されている京都ですが、観光都市京都のおもてなしの一環としてもユニバーサルデザインが機能していることが推察されました。

平成 31 年度の夏季セミナーは富山大学で実施し、講演会のテーマはアパレルの品質に求められるもの、アパレルにおけるファスニング製品、スペインマドリッドにおける日本の美術教育の受け止め方など多岐にわたりました。2 日目の午後には（株）能作の鋳物工場の見学と（株）ゴールドウインの見学を行いました。特にゴールドウインは当時スポーツウエアがストリートにも進出し、衣服の機能性と審美性の兼ね合いの面からたいへん注目されていただけに有意義な見学となりました。

平成 31 年度の公開春季セミナーは企画していたにも関わらず、残念なことにコロナのために中止になってしまいましたが、以上のように部会長として 2 年間務めさせていただいたことは本当に思い出深いものになりました。

最後になりますが、私は 39 年間勤務しました目白大学を本年 3 月に退職しました。大学で被服心理の講義を担当し、学生たちに教えていく中で、さまざまな課題もみえてきましたが、それ以上にこれからの可能性を感じていました。何より学生が大変興味を持ちますので、今後多くの大学で被服心理学の科目が設置されることを望んでやみません。そのためにも部会員の皆様の研究がさらに活発に行われ研究者として活躍されることを願っております。

「被服心理学との出会い」

小野寺 美和（甲南女子大学）

被服心理学部会創立 40 周年おめでとうございます。心から御祝い申し上げます。今回寄稿に当たり恐縮ではございますが、これまでの自身の研究活動を振り返ってみたいと思います。当該部会に参加したのは、約 10 年前になります。丁度、福岡県内の大学から宮城県内の大学に活動拠点を移した直後でした。さらに、自身の故郷でもある宮城県内は東日本大震災で受けた甚大な被害からの復興活動を本格的に開始した頃でもありました。連日、各メディアが放送する避難所生活の映像を視るうちに、さらに、各方面から送られてくる衣類に関する支援物資の情報に触れる度、「何故、機能性の情報や審美性を兼ね揃えた衣類が極端に少ないのだろうか」と違和感を覚えました。また、余震が続いていた時期でもあったことから、防災グッズの紹介や避難生活の映像が流れておりましたが、非常持ち出し品や備蓄品として衣類を準備しておくことを推奨しているにもかかわらず、その内容は、主に下着や靴下等のインナー類の記載のみであり、避難時や救助活動時の視認性や耐久性、そして防寒性に優れた動きやすい衣類の紹介に関してはほとんど言及されていませんでした。災害時、避難生活で最も気を付けなければならない点は、体温の保持であり、夏に被災した場合でも昼夜の気温差が激しいなどが想定されることから、防寒性に優れた「動きやすい」衣類は必要不可欠であると言えます。しかし、震災を経験したからこそ、当時の自身にとって、「単に衣類は『動きやすい』だけではなく、伸縮性が高く、様々な作業に支障を来さない、さらに、見苦しくない程度のファッション性が求められるのではなかろうか？」と考えていたのを思い出します。つまり、被服は災害時であっても自己にとっての変容を、また、他者に対して情報の伝達や社会作用機能をもたらすなど、単に人体の体温調節や可動域を確保するためだけでなく、円滑な人間関係を形成し生活する手段として装うことは欠かせないのだと、「被服心理学」という学問を通して痛感したのを覚えております。学生時代に興味を持ったアパレル感性工学的手法から、被服の色彩、柄、素材などの構成要素が齎す災害時の衣服設計に関する研究活動を震災後に進めてきましたが、被服自体から受ける魅力や審美性は、概ね感覚的感情(物理的刺激特性の知覚自体によって生じる感情)と捉えることができると分かり、当該部会に入会いたしました。

現在、自身は高視認性安全服（「見落とされるリスクの高い状況で、視認性を高め、着用者の安全性を向上させることを目的とした衣服」と定義）の研究を試みております。再帰性反射材や蛍光材、さらには蓄光材などが施された被服の力学特性や、ヒトの視認性に着目した際の、明所視や薄明視、暗所視の状況に曝露した、上記の被服について、生理量や心理反応量など得られたデータの傾向から、被服がヒトの心理に与える影響について検討しておりますが、毎回データの取扱い方法の難しさを感じております。最後になりますが、被服心理学という学問の視点が、自身の研究活動に深みを齎してくれたと言ってもよいです。これまで、研究活動を支えて下さった部会員皆様に御礼と感謝申し上げます。微力ではございますが、今後も当該部会の発展に協力していきたいと思っておりますので、ご指導の程宜しくお願い致します。

被服心理学部会と私

加藤 千穂（椙山女学園大学）

一般社団法人日本家政学会被服心理学部会が創立 40 周年を迎えられたとのこと、心よりお祝い申し上げます。

私が被服心理学部会に入会したのは、名古屋女子大学で助手をしていた 16 年ぐらい前に石原久代先生に紹介していただいたのがきっかけです。それまでは、被服構成学を専門として体型とパターンに関する研究をすすめてきましたが、もう少し視野を広げて学びたいと思い被服心理学部会に入会いたしました。

入会後は、セミナーに参加させていただき、講演会や事例研究を拝聴し、見学会で実際足を運び見ることでたくさんの学びを得ることができました。しかし、出産、育児のため仕事を辞めることとなり、しばらく学会活動ができない状況が続きました。

2018 年頃より学会活動を再開するようになり、2019 年度からは中部地区の地区委員をさせていただくこととなりました。2019 年度、富山で開催された夏季セミナーの後、春季セミナーは COVID-19 感染防止のため中止となり、その後はオンラインでの部会活動がメインとなりました。

この 10 年を振り返ると、私の場合、ブランクもあるため、先生方とほとんど交流することなく過ごしてきたのだと感じました。COVID-19 により、学会活動においても、オンラインでの活動が多くなりました。オンラインの講演会等は、非常勤講師の私の立場では、とても参加しやすく、移動に時間をとられないのも魅力です。しかし、今年度、対面開催の全国大会に参加し、先生方とお話することができたのは、オンラインにはない充実した時間だったと感じております。

今後の 10 年もどのような形で仕事をするかわからない状況ではありますが、今後の研究や教育に活かすことができるよう講演会等には積極的に参加し、研鑽を積みたいと考えております。

まずは、中部地区担当の 2023 年春季セミナーがつつがなくできるよう、地区委員として準備を進めてまいります。

最後に、被服心理学部会の一層のご発展と皆様の益々のご活躍を祈念して、お祝いの言葉とさせていただきます。

博物館資料と被服心理学

金井 光代（文化学園服飾博物館）

このたびは、被服心理学部会が創立 40 周年を迎えられた事、心よりお慶び申し上げます。

私は、共立女子大学と同大学院で、被服心理学と染織文化史を学び、現在は、文化学園服飾博物館で学芸員として勤務をしています。博物館での学芸員業務と被服心理学にはあまり関連がないように感じられるかもしれませんが、実は大いに関連しており、私は、被服心理学で学んだことを活かして日々の業務にあたっております。

当館では、日本の着物類、ヨーロッパのドレス類、世界各地の民族衣装など、様々な服飾資料を約 20,000 点所蔵しております。所蔵資料の内、古くは、日本の着物であれば江戸時代中期、ヨーロッパのドレスであれば 18 世紀の資料を所蔵しています。昔の人々がどのような思いを持って着用衣服を選択していたのかを、アンケート調査やインタビューなどを実施して知ることはできませんが、人の行動や思考は時代を超えても共通することが多く、現代人の行動や思考から昔の人々がどのような思いで着用衣服を選択していたのかを推測することが可能です。そのようにして仮説を立てたのち、実物資料の丹念な調査や文献資料による裏付けなどを取ることで、その資料がどのような人々に、どのような思いで着用されてきたのかが分かるのです。このように、被服心理学は、被服学の中でも応用範囲が広く、普遍的な学問であると感じています。

私も被服心理学部会の一員として、被服心理学の発展に寄与できるよう努めてまいりたいと思います。被服心理学部会のさらなる発展とご活躍をお祈り申し上げます。

部会活動の思い出

小林 茂雄（共立女子大学名誉教授）

被服心理学部会の過去の記念誌を参考に記憶を呼び起こしながら、国際学会大会への参加、他学会とのシンポジウムなどについて記述したいと思います。私は1980年4月に共立女子大学家政学部被服学科に転職して以来、2007年3月の定年まで教員として在籍しました。家政学会に被服心理学部会が結成されたのは1984年であり、第1回夏季セミナーが8月28・29日に神戸の舞子ビラで、62名の参加者のもと開催されたことが思い出されます。初代の部会長は大阪市立大学名誉教授の田中道一先生(1984年8月～1988年8月)であり、私はその後を引き継いで、部会長(1988年8月～1992年8月)を務めました。

さて国際学会大会への参加については、アメリカ ITAA(International Textile & Apparel Association)への参加があります。この大会は、1991年10月30日～11月2日にサンフランシスコの「Le Meridien Hotel」で開催されましたが、被服心理学部会員11名を中心に参加者は14名でした。わが国からは被服心理学部会員によるポスター発表3件が報告されました。また、「日本における被服学教育と研究」の特別セッションが設けられ、被服構成学部会から参加された松山容子先生(大妻女子大学)が大学の教育、林隆子先生(信州大学)が短期大学の教育について報告され、私はアバレルの技術と研究の動向について報告しました。なお、大会の前日にはサンフランシスコ州立大学を訪問して、被服学関係の授業参観と討論をしました。今回の ITAA 大会への参加の実現には、藤原康晴先生(鳴門教育大学)のご尽力が大でありました(詳細は10周年記念誌、泉加代子；ITAA 年次大会への参加)。

被服心理学部会第17回夏季セミナーは、韓国の服飾文化学会の国際研究発表会への参加という形態で実施されました。国際研究発表会の主題は「21世紀の服飾文化への課題」であり、2000年9月16日にソウルの漢陽大学で開催され、被服心理学部会員を中心に19名が参加しました。わが国からは講演1件、風間 健先生(武庫川女子大学)が「日本における衣類消費の動向」について報告されました。また、ポスター発表は9件でしたが、私も2件の共同研究のポスター発表をしました(詳細は20周年記念誌、藤原康晴；服飾文化学会の2000年国際研究発表会への参加)。

他学会とのシンポジウムについては、社会心理学会との「ファッションと情報」の合同シンポジウムがあります。社会心理学会にはファッションに関心のある先生も多いので、社会心理学会の飽戸 弘先生(東京大学)と私との間で話を進め、1992年4月25日に共立女子大学でシンポジウムを開催しました。当日は全国各地から110名の参加者がありましたが、家政学会関係から60%、社会心理学会関係から40%の割合でありました。報告(社会心理から1件、被服心理から3件)、およびパネル討論(パネラーは社会心理、被服心理から各2名)が行われました(詳細は10周年記念誌、杉田洋子；家政学会・社会心理学会合同シンポジウム)。

教育研究と被服心理

薩本 弥生（横浜国立大学）

部会創立 40 周年、おめでとうございます。被服には保健衛生的な役割と社会的文化的な役割がありますが、私自身は現在の職場で教育学部に赴任する前には被服構成学や被服衛生学、被服材料学等をベースにした被服環境学の観点から研究をしてきたので被服の保健衛生的な観点到に興味がありました。教育学部に赴任してから研究のテーマとして学生の興味や被服心理に関わることが多く、学生指導をする上で基本的な研究手法を学びたく、被服心理部会に入会させていただきました。過去の纏足やコルセットのようにファッションは我慢とばかりに現在でも身体に負担をかけるようなファッションの流行が厚底靴やミュール、パンプス、補正ブラジャーのように、繰り返されています。また、やせた身体を美の規範とするような価値観が日本の若い女性には強いため、客観的にはやせにあたるような学生がもっと痩せたいとダイエットをするなど過剰なやせ願望の圧力を抱えているようにも感じます。被服で外観を整えること自体は身だしなみとして良いことですが、行き過ぎは要注意だと感じます。着装シミュレーションを使ったソフトが出始めたころ、卒論生が被服心理的な研究テーマで研究を行いました。被服の個性の表現を 7 段階の形容語で、顔のタイプを形容語でアンケートをして、どんな顔タイプがどのような服と相性が良いか、また、その顔タイプの人物と知り合いかどうかで評価に違いがあるか等をアンケート調査で先行研究を参考にしてアンケートを実施しました。解析方法で行き詰まった時に当時、共立女子大学にいらした小林茂雄先生のところに学生と一緒に相談に伺いました。丁寧に相談に乗っていただき、何とか卒論にまとめることができました。その後、他学会ですが、被服心理の特集号に掲載いただきました。それが初めての被服心理的な研究でした。その後、学校教育に絡めた着物文化に関する研究をプロジェクト研究として続けてきました。アンケート調査で心理的な調査研究の手法を学びながら研究実践を続けています。このところ、コロナ禍の影響で遠隔の夏季セミナー等が開催され、対面だと中々都合が合わずに参加できずにいたのが、遠隔の手軽さもあり、毎回、参加できて最新の動向を伺うことが出来て大変勉強になっています。過去には心理的な研究手法の勉強会もあったと伺っています。また、勉強会も是非、企画いただけたらと期待します。部会がさらなる発展をすることを祈念しています。

被服心理学部会の40周年を祝して・所感

佐藤 悦子 上越教育大学(非)

被服心理学部会が創立 40 周年を迎えられたとのこと、誠におめでとうございます。
早いもので 30 周年記念夏季セミナー開催・記念誌の刊行から 10 年が過ぎたことになり、感慨深い思いがあります。

特に、この 10 年後半は、コロナ禍によってこれまでの教育・研究活動の転換を余儀なくされた中でも部会セミナーをオンラインで開催いただき、その熱意が伝わってきて元気の源になりました。企画・運営に携わっていただいた先生方に感謝申し上げます。

この間、何をしてきたかと自問してみると、ちょうど人生の節目にあたる耳順・従心の時期に体を壊して研究活動をこれまでのようには維持できなくなりました。まさに「少年老い易く学成り難し」とはこのことです。「一寸の光陰軽んずべからず」もここ数年は、時間の経つのが数倍速く感じるようになって思った以上にことが進まない現実猛省しています。

そのような時期でしたが所属大学において児童学の先生との共同研究“幼児期のボタンかけはずしの動作獲得”から画像を捉える手法と観点は、新鮮な学びとなりました。この学びを契機として、専門領域が異なる先生方との交流機会が広がり、自身の被服学領域を述べる際に“身に纏う”ことの意味を共有認識できる嬉しさと被服心理学分野の重要性を実感することが多くなりました。およばずながら広報活動を続けていけたらと思っています。

本年度 8 月に開催された 40 周年記念公開夏季セミナーのテーマ「“衣”研究における隣接学問からのアプローチ ―被服学の未来を考える―」は、今後の進展の可能性が示唆される企画内容に大いに刺激を受けました。まだまだ勉強が足りないですね。

現在の私は、現職を退いて 2 年目ですが非常勤講師として被服学関連の講義と実習の授業で上越教育大学に伺っています。幸いにも教育活動を何とか続けさせていただいていることに感謝しています。

また、部会の監事として、部会会計の監査役を担当させていただいております。会計担当の原田先生、同監事の藤田先生には年度末のお忙しい時期にも関わらず書類等を整えていただいて大過なくお役目を果たしております。改めて感謝申し上げます。

微力ながらも教育・研究活動へと発展できましたのは、被服心理学部会での学びと共同研究の一員として参加させていただいた賜物と考えています。

最後になりましたが“継続は力なり”です。今後も被服心理学部会のご発展を祈念いたしております。

「被服心理学部会との思い出」と「最近の被服心理」について

孫 珠熙 SOHN Ju-Hee (金沢医科大学、前富山大学)



(一社) 日本服装学会 2019年度 被服心理学部会

公開夏季セミナー

日時 8月26日(月) 12:40~17:10
27日(火) 9:30~16:00

会場 富山大学(五箇年キャンパス)
人間発達科学部 大ホール(3階 3000席)
〒930-8501 富山県富山市
富山大学から市内電車「大町駅」徒歩約10分(富山大学まで約200円、富山大学から富山駅まで約100円)



【★ 被服心理学部会との思い出】

令和5年(2023年)度40周年記念公開夏季セミナー(オンライン開催)開催も無事終了!40周年記念おめでとうございます。2020年1月下旬からはコロナ(COVID-19)感染症の危機が続き、部会の夏季・春季セミナーはZOOMを利用したONLINEでの開催が4年間続きました。コロナ感染症が始まる前は対面での開催でした。左側の写真は当時の2019年度夏季セミナー開催の様子です。皆様の会員・非会員が対面でお集まりいただき、情報交流会も和やかな雰囲気の中で、楽しいひと時を過ごさせていただきました。令和元年(2019)8月26日(月)~27日(火)富山大学にて開催だから、見学会は富山県の(株)能作と(株)ゴールドウイン Goldwin 会社を見学しました。ご講演は当時日本衣料管理協会会長の小林茂雄先生、YKK(株)本社ファスニング事業本部小野芳行氏、隅先生、石原先生がご担当、全体の企画は部会長の十一先生・前部会長の太枝先生及び孫の役割でした。40周期を迎えたことは歴代の部会長のボランティア精神のおかげ様だと思います。

私は恩師の中川早苗先生のご紹介で1998年頃から入会しています。(Photoは上から連番で、①~③はセミナー様子、④はセミナーご案内、⑤はのうさくのCafé Lunch、⑥は見学様子、⑦情報交換会の様子)

【★★ 最近の被服心理について】

国際的にはOPEN ACCESSとなった国際ジャーナル誌への投稿が大勢!Articleの論文はArt therapy, Music therapy, Fashion therapyなど。在宅医療が増え、医師の服装に注目!洋書は「Sharron J. Lennon, kim p. JOHNSON, Nancy A. RUDD; SOCIAL Psychology of DRESS、1~379頁、2017」、和書は「小林茂雄、藤田雅夫編著、内田、孫、内藤著;装いの心理と行動、1~124頁、アイケイコーポレーション、2017」

などがある。Music therapyは聴覚を、Fashion therapyは視覚と触感のジャンル。著名なMaslowのSelf-actualization, Esteemに向けた高次元欲求の研究!



被服心理学の視点から研究・教育活動をふりかえる

谷 明日香（大阪樟蔭女子大学）

被服心理学部会創立 40 周年、おめでとうございます。部会員となり間もない立場で恐縮ながら、被服心理学との出会いを述べさせていただきます。

私は、生活環境学部で衣服とは何か総合的に学びました。最初に興味をもった分野は被服材料学です。機能性素材に関する研究に触れながら、そのような素材を人が身につけたときにどのように感じるのか、繊維素材だけでなく、着用時の快適性を捉えることが心身に優しいアパレルを創造する上で大切だと感じました。これまでに実施してきた私の研究・教育活動を被服心理学の視点から振り返りたいと思います。

1 つ目に、研究活動として、2018 年より高視認性安全服についての研究を行っています。中でも、暗闇で光る蓄光布の創製を試み、その力学特性や燐光輝度の持続性を評価するとともに、その光を見たヒトがどのように感じるのか生理・心理反応を明らかにしています¹⁾。生理量・心理データには個人差があるため、データを読み解くのは非常に難しいと感じています。風間²⁾は、被服心理学の手法はさまざまな論拠があるべきで、統計的なデータ処理よりも、直感的な洞察の方がよい成果を生む場合もあると述べており、ヒトの心アプローチする研究には経験則や洞察力が伴う難しさを感じています。

2 つ目に、教育活動として、2015 年より衣服のアップサイクル活動を行っています。これは、衣服のリサイクル率の低さに着目し、身近な衣服から環境問題に視野を広げる学びの機会として地域の方と一緒にを行っています。具体的には、衣服のリサイクル意識に関する調査や身近でリサイクルに協力できる環境づくりとリサイクル行動を促す働きかけとして、幼稚園児の古着を回収し、ロゼットにアップサイクルする活動をしています³⁾。本活動では、始めは興味の薄い学生も地域の方に向けて実践する中で、「子どもたちのために！」「お姉ちゃんが作ってくれたから！」という社会的繋がりが構築され、楽しみながらモチベーションを高めていく姿もみられます。思い出の衣服を提供くださる園児と保護者の期待と古着となった衣服から園児の姿や好みを汲み取りロゼットへ心を込める学生の思いの中で両者の中に愛着が湧いていきます。学生が園児に完成したロゼットを手渡す頃には、学生が製作への思いを伝え、園児が感謝を表現し、両者の気持ちが行き交う中で、衣服のリサイクル意識が高まっていくのを感じます。

人は多くの時間を衣服を纏って過ごします。被服心理学に出会い、衣服と人の心は切り離して考えることはできないと考えるようになりました。まだまだ被服心理学を語るには経験が浅く未熟ではございますが、今後も人に寄り添う心身に優しいアパレルについて追求し、被服心理学部会に貢献できるような研究・教育活動に励みたいと存じます。

1) 谷明日香：蓄光布のりん光がヒトの生理・心理反応に及ぼす効果，被服衛生学，39，2-8(2020)

2) 風間健：被服心理学研究・教育への展望，繊維工学，45(11)，561-564(1992)

3) 谷明日香：衣服のアップサイクル活動の実践と学習効果，被服心理学部会第 38 回公開夏季セミナー要旨集(2020)

被服心理学と私

田村 和子（元高知大学教育学部）

この原稿を書いている2日前に、教え子から、「〇〇〇〇大学から採用の知らせが届きました」との連絡が届きました。書類作成から面接まで指導したので、本当に嬉しかったです。50歳手前の再出発を応援して、私も勉強になりました。彼女は私にとって初めての大学院生で、被服心理で修士論文を書き、高校の教員になりました。被服心理40周年の年に嬉しい知らせが届き、何か繋がりを感じます。

私は大阪市立大学の修士の時に田中道一先生と出会いました。28歳の時に高知大学に就職し、就職後も田中先生の背中を追いかけながら研究に励みました。日本繊維機械学会での被服心理学研究会では、藤原先生、中川先生、その他大勢の先生方と出会い勉強させていただきました。それから、忘れてはならないのは事務局長の淵上さんです。淵上さんにもいろいろと教えていただきました。当時はメール等ありませんでしたので、「耳学問」でしたが、本当に貴重なものとなりました。

私は2年前に学生教育を卒業しましたが、被服心理学は今も実践中です。「人をよく観察すること」から、「自分がどう見られているのか」に変化しました。というのも、在職中の片付けで右膝と、右膝をかばって左股関節を負傷したからです。現在、2本杖を突いてノルディックウォーキング状態です。これで歩いていると、「カッコいい」「素敵な杖ね。どこで買ったの」等と見知らぬ人から声掛けられます。服装では、登山の服装をすると「山登りですか」、年寄りの服装をすると「大変ですね。気を付けて歩きよ」、スポーツウェア歩くと「運動ですか」等と声掛けられます。「人は見た目で判断される」のは本当で、毎日体験して、笑っています。被服心理学を学んだお陰で、冷静に自分を見ることができています。これらのことから、被服心理学の知識は実生活に役立つものだと言え、「年が寄ると服装は大事ななあ」を実感しています。

被服心理学に関する研究は、1975年に日本繊維機械学会の中で、被服心理学研究分科会において始められ、私も分科会に参加して研究発表をさせていただきました。地道な活動の後、1984年に日本家政学会被服心理部会の設置が認められ、毎年例会および夏季セミナーが開催され、参加させていただきました。この原稿を書くにあたり、教科書として使った「被服心理学」中川早苗編を読み直し、テキスト作成の時の苦労などを思い出しました。

訳も分からず、田中先生に手を引っ張られて始まった研究生活ですが、40年間被服心理学一筋の研究生活でした。教育学部では、「人を服装で判断するのは何事ぞ」と叱られ、何度も昇任人事で落とされました。そのたびに、「別に、教授になりたいくて大学に勤めたわけでもなし。。好きな本が読めて、研究するのが好きだから」と思いながら、論文を書き続けたことは今ではよい思い出です。いろいろあったけれど書き続けた結果、被服心理学は私の資産の一つとなりました。最後に、40年間の継続にご尽力下さいました、皆様に感謝です。

部会の思い出

辻 幸恵（神戸学院大学）

1984年に発足した本部会の40周年のお祝いを申し上げます。タイトルを「部会の思い出」にいたしました。が、部会との関わりの時間の積み重ねは「恐縮」の連続だったように思います。

最初の頃は、武庫川女子大学名誉教授故風間健先生に連れられて部会に参加させて頂いておりました。当時は「ブランドとその選択基準」の研究をしておりましたので、被服心理という学問領域はまさにぴったりだと思っておりました。大学院生時代を終えた後は、ゼミの学生たちと一緒にセミナーに参加させて頂きました。私が所属している経営学部では男子が女子よりも多く、一緒に参加する学生も男子が多かったのですが、風間先生から「同性から認められるように、慕われるようになったら一人前ですね」と言われ、恐縮したことを覚えております。来年、教員になって26年目になります。はじめて男子よりも女子の人数が1人多いゼミになりますが、まだ一人前だとは思えません。

さて、2007年の第24回の夏季セミナーは中国学園・中国短期大学で開催されました。その折、「京ブランドの魅力を探るーイメージ戦略についてー」というタイトルで講演をさせて頂きました。ちょうど京都の伝統工芸や地域マーケティングに興味があったので、講演をお引き受けさせて頂きましたが、今、思い出すと至らなさに赤面致します。和物に関心がありましたが、研究対象としての洞察が未熟でした。未熟の続きで言えば、30周年の折は「こだわり」について記念誌に執筆させて頂きましたが、今、読み返すと研究のビジョンが狭いように思え、これも大恐縮です。

2023年の夏季セミナーはオンライン開催されました。そのため、学生たちも参加しやすく、本学からは9人の学生が参加しました。その中の1人は、戦後日本社会の着物文化について感銘を受け、歴史と衣服の関係を卒業論文のテーマにしたいそうです。また別の学生は、「借りる」ということに興味を持ち、「衣類のシェア」について考えたいと申ししていました。

最後に、これからも、おそらくいくつも大恐縮しながら、参加させて頂くと思います。可能な限り研究を続けて、研究対象である「選択基準の解明」の中で、何かひとつでも後世に残すことができたらと思っております。そして、できれば次の50周年には、この部会の場でご披露できればと思います。

被服心理学研究と私 ～研究成果の応用・展開～

内藤 章江（お茶の水女子大学）

このたび、被服心理学部会が設立 40 周年を迎えられましたことを、心よりお慶び申し上げます。また、30 周年に引き続き、記念する事業の一端に携われますことをありがたく感じております。被服心理学部会設立 20 周年（平成 15 年）を迎えたときには、共立女子大学の小林茂雄先生よりご指導を賜り、博士号の学位を頂戴したのち相山女学園大学生活科学部の助手として研究者生活をスタートさせた記念すべき年でありました。30 周年（平成 25 年）を迎えたときには、お茶の水女子大学に籍を移して 5 年が経過し、専門分野が異なる方々との出会いにより被服心理学の新たな活用方法を見出した年となりました。被服心理学の研究に携わること約 20 年間となりますが、これまでに携わった被服心理学研究の成果をどのように応用・展開してきたかについて述べたいと存じます。相山女学園大学在籍中（平成 15 年～平成 20 年）はアパレル分野の先生方よりご指導を賜りつつ教育・研究に努め、アパレル分野発展のために着装効果や着用状態の呈示方法による効果を明らかにする研究活動を行ってまいりました。お茶の水女子大学リーダーシップ養成教育研究センター（現：グローバルリーダーシップ研究所）着任後（平成 20 年～）は、ジェンダー研究や社会学研究、倫理・哲学研究など異なる分野の方々と、これまでの専門分野とは異なる女性のリーダーシップ育成やキャリア教育を中心とした教育・研究・業務に 14 年間携わりました。長きにわたり携わることができたのは、ひとえに被服心理学部会の諸先生方のご指導・ご鞭撻と被服心理学研究を続けてきたおかげと言えます。リーダーシップを発揮し、キャリアを構築するためには、他者とのコミュニケーションを円滑かつ活発化する必要があります。被服心理学研究では、印象形成や印象操作、自己概念と装いの関係、場と装いの関係、集団と装いの関係、社会的役割や社会規範と装いの関係などのテーマを多数扱っており、被服心理学部会の諸先生方の研究成果や私が行ってきた研究の成果をそれらのスキル形成に応用可能と考え、学部生向け授業「女性リーダーへの道（入門編）」や「パーソナル・ブランディング」として学生に知見を教授し、私なりのリーダーシップ育成やキャリア教育を展開しました。受講した学生たちはその後社会に羽ばたき、各方面で活躍しています。さらに、社会人女性を対象とした「お茶大女性リーダー育成塾：徽音塾」の創設・運営にも携わり、自らも講師となり社会人女性にリーダーシップの発揮やキャリア構築に役立つ被服心理学の知見を提供しています。被服心理学研究の成果は、アパレル分野の発展だけでなく、リーダーシップ育成やキャリア構築にも応用・展開可能であることを実感しつつ、さらに早い段階から衣服を通じて心を育む取組（服育）が必要と感じ、現在は学校制服の導入・着用効果について研究を進めています。今後も、被服心理学部会の先生方や開催されるセミナー等から様々な刺激を得て、多くのことを学ばせていただき、研究成果をさらなる研究・教育に応用・展開したいと存じます。

被服心理学部会と私

原田 妙子（名古屋女子大学短期大学部）

被服心理学部会の創立 40 周年を迎えられまして、お慶び申し上げます。

私が大学の教員となり、早 40 年以上が経ちました。振り返りますと、被服心理学部会と共に、歩んできたような気になっております。

大学時代からの専門分野は被服構成学であり、大学に就職して以来、女子大学生の体型について、継続的に計測を行ってきました。大学時代第 2 回の日本人の体格調査での学生としてのお手伝い、就職してからは助手として第 3 回に、さらに 2014 年には、日本女子大学の大塚美智子先生を研究責任者とする科学研究費基盤研究 (A)「アパレルの質と国際競争力向上の基盤となる日本人の人体計測データの構築と高くて気分性」の研究実施者として関わらせていただきました。

30 周年記念の時にも書かせていただきましたように、既製のサイズの考えるにあたり、人体計測は非常に大切なことですが、体にぴったりあった衣服を選んで着装したとき、それが似合っているのか、第三者にはどのように見えているのか、あるいは着装することにどのような心理状態が働いているのかなどを考えていくことが、ますます必要になっています。奈良女子大学大学院で社会人入学として、中川早苗先生にご指導をいただきましてから、早 20 年以上が経ちましたが、その時得た成果は、自分が思っている体つきの評価は、第三者が評価するよりも厳しい評価となっており、現代の若い女性性は、痩せていてもまだまだ痩せたいという気持ちを持っていることなどが確認できました。昨今の女子学生を見ていると、自分に似合うということが、本当はどういうことか分からなくなっているのではないかと不安を抱くことも多々あります。今後は、被服構成学と被服心理学だけでなく、他の分野とも組み合わせて、女性の着装について、ますます検討を進めていただきたいと考えています。

この 40 年を振り返り、被服心理学部会の先生方には、多くのことを教えていただきました。さらに、コロナ禍を乗り越え、部会のセミナーなどでは、先生方のやさしさや楽しさに触れさせていただきました。マーケティングや消費者教育、化粧心理、アパレルの品質、色彩など、一人では学びきれない幅広い知識をいただき、富山、仙台、児島、京都、東京などなど、日本中を見学させていただいた気になっております。

私事ではありますが、本務校で定年を迎える年になっております。この部会での活動が今後の生活に潤いを与えてくれると信じております。

先生方のご活躍と、被服心理学部会のますますのご発展をお祈りいたします。

被服心理学部会の今後

藤田 雅夫（共立女子大学）

本原稿を書くにあたって 30 周年記念誌を読み返し、改めて月日の流れの速さに驚いている。あっという間の 10 年間だった。この間、つつがなく教員を続けることができ、2023 年 3 月に無事定年退職を迎えた。今は、嘱託教授として引き続き共立女子大学に勤めているが、被服学科とは離れ、共通教育センターというところで働いている。15 年間教え続けてきた被服心理学の授業も手を離れ、心理学の本を手にもする機会もまれになってしまった。

そんな現状でも、被服心理学部会の存在は、私の中で大きな位置を占めている。部会を通じて学ばせていただいた知見はもちろん、何よりもここで育まれた人的ネットワークがかけがえのない財産である。この会に導いていただいた小林先生に改めて感謝を申し上げたい。

では、お世話になってきた被服心理学部会への恩返しとして、この先、自分に何ができるだろう。40 周年を機にそんなことを考えてみた。

この 10 年間を通して気になっていることは、部会員の減少である。大学の被服分野を取り巻く環境は厳しく、新たな先生の加入が少ないのも仕方ないと思う。ただ、学生にとっても被服心理学は魅力的な分野であり、被服心理学部会が活性化しないのは、なんとももったいない。では、部会員を増やして部会を活性化させるにはどんな手立てがあるだろう。

私は、実業界との関係を密にして、企業人の部会員を増やすことも一つの方向性だと考える。私の専門はマーケティングだがマーケティング戦略を考える人間にとって、心理の研究と理解は不可欠である。ファッション業界の方と話をしても被服心理学に興味を持ってくれる人はとても多い。ただ、部会と企業人の方が触れ合う機会がほとんどないのが現状である。

そこで、まずは部会メンバーと企業の方が触れあえる機会を創出したい。その後、共同研究にまで進めれば、更に望ましい。現在、私は日本衣料管理協会の副会長をしており、衣料系産学全体のためにも、こうした活動の橋渡し役を務められれば、と思っている。

と、ここまで書き進めてきて、少し後悔している。こんなことを 40 周年誌で公言しちゃっていいの？本当に実現できるの？といった心の声が聞こえてくるからである。でも、人は弱いものであり、できればいいなと思っているだけでは実現しない。まして、ただでさえ守りに入ってくる年齢である。40 周年誌という重要な場で発言してしまえば、やらなきゃいけないという覚悟もできてくるだろう。

若手の先生方、一緒にこうした活動を始めてみませんか？そして、50 周年に向けて新しい部会の可能性を創っていきませんか？

これまでお世話になってきた被服心理学部会に最後の（？）恩返しをして、少しでも役に立つことができれば、そして 50 周年誌を無事に読むことができれば、これに勝る幸せはないと考えている。

被服心理学の発展を願って

松岡 依里子（国際ファッション専門職大学）

被服心理学を初めて知ったのは、奈良女子大学大学院（修士論文）で中川早苗先生に指導してもらっていた時でした。1980 年代前半、ファッションにおける諸問題が社会的にクローズアップされ、「男子がバーゲンに並ぶ」といった現象が新聞で取り上げられる時代でした。こうした背景から、私は社会的側面に焦点を当てた研究に興味を抱き、中川早苗先生から被服を社会科学的に分析する手法を学びました。大学の学部で社会学の基礎を修得しており、その理論を被服行動の分析に適用することが可能であることを知りました。当時はジェンダー研究が隆盛で、服装が男性性、女性性などの自己概念に及ぼす影響について研究を深めました。この時期から、被服心理学のセミナーにも積極的に参加するようになりました。

その後、ファッションの輸入商社でファッションビジネスの実務を経験しました。研究も絶えず考慮していましたが、企業での職務が拡大するにつれて学ぶ時間が短くなり、結婚、出産、介護などが加わり社会との接点が次第に希薄となりました。しかしながら、再び被服心理学を学びたいという強い気持ちが湧き起こり、子育てや介護が一段落した頃、40 歳で文化学園大学の博士後期課程に入学しました。

遅い再スタートでしたが、その後、被服心理学部会に継続的に参加し、夏季セミナーの開催や日本家政学会への論文投稿など、微力ながら被服心理学の研究を精力的に続けています。前勤務先では「ファッション心理学」の講義科目を開設してもらいました。現在は、異なる科目を担当しつつ、その中で被服心理学の重要性や内容を学生に伝えています。

研究は男性性や女性性の分析から出発し、身体装飾や自己愛と被服行動、サステナブル社会に向けたワードローブ研究など、心理との関連性を検討しながら進めてきました。2004 年に刊行された「新版被服心理学 中川早苗編（日本繊維機械学会）」に執筆した経験もあり、1984 年から続けている被服心理学の研究を今後も進めます。また、自身の研究を通じて学生に理論を伝えることが、被服心理学の発展にもつながると思います。被服心理学部会の今後の発展を願いつつ、若手の育成にも貢献していきたいと思っています。

今後ともご指導のほど、どうぞよろしくお願いいたします。

被服心理学部会の発展を祈念して

名誉会員 渡辺澄子

大変長らく失礼しております。被服心理学部会 40 周年記念をお祝い申し上げます。
私は 60 歳で退職しまして、すでに 17 年の年月が経ちました。退職後数年間は非常勤講師として、被服心理学の講義を続けておりましたが、その後学会への出席からも遠ざかってしまいまして、名誉会員の名前を頂いていますことを心苦しく思っております。

この度記念誌を出されるとの依頼を受けて、遠い昔になることですが、沢山の思い出がよみがえって参りました。しかしここで思い出を連ねてもあまり意味がないように思いますので、現在の心境を書かせていただきます。後期高齢者のこの年齢になりますと、自分の歩いてきた道で多くのことを学び、そしてそれが現在の自分自身を作り上げていることを実感します。私にとって最もよかったと思われる被服心理学部会での学びは、若いころに多変量解析を衝撃的に学んだこと、そして初期のコンピューターを学んだこと、さらに鷺田清一先生由来の哲学を学んだことです。これは現在の私自身のものの見方、生き方、考え方の基盤になったなと思っています。

被服心理学部会のホームページには家政学の分野での well-being を目指しているという文言が変わらずあります。時代が変わっても理念は変わらないのが学問の普遍性だと思います。世界情勢という観点では大きく変化し続けていますが、世界に共通する学問の理念を追求する研究者の使命として、日本だけでなく広く世界にまたがる課題として、被服と宗教、被服とジェンダー、被服と格差や差別、被服と持続可能な地球環境問題等、被服学全体で取り組んで欲しいテーマが考えられます。これからの 10 年後を目指して被服心理学部会員の皆様の果敢な挑戦とご活躍を祈念しております。

40周年までの過去10年間のセミナーの歩み

30周年記念 平成25(2013)年度 夏季セミナー			
日程	平成25(2013)年 8月 20日 (火)・21日 (水)		
会場	大阪成蹊学園 (大阪成蹊短期大学、大阪成蹊大学) 北館415教室 〒533-0007 大阪市東淀川区相川3-10-62 Tel 06-5829-2600 阪急京都線相川駅から徒歩3分 JR東海道線吹田駅スクールバスまで		
8月20日 (火) 公開講演			
内容	講演1「美容整形・美容医療に対する意識分析」 関西大学 総合情報学部 教授 谷本 奈穂氏 講演2「戦後の若者ファッションの精神史」 京都造形芸術大学 空間デザイン学科 教授 成実 弘至氏 事例研究「女子学生の感性と企業の商品企画」 京都効果女子大学 短期大学部 大澤 香奈子氏		
タイムスケジュール	13:00～13:10	開会挨拶	部会長 石原 久代
	13:10～14:30	講演1	
	14:40～16:00	講演2	
	16:10～16:40	事例研究	
	16:55～17:30	定例部会	
	18:00～20:00	情報交換会	
8月21日 (水) 公開講演会・見学会			
内容	講演3「被服心理学における展開と今後の課題」 大阪経済 大学教授 家本 修氏 講演4「服装力と服装を評価する力」 放送大学客員教授 藤原 康晴氏		
タイムスケジュール	9:30～10:40	講演3	
	10:50～12:10	講演4	
	12:10～13:30	30周年記念情報交換会	
	13:30～	グランフロント大阪見学会	
その他	問い合わせ先 〒533-0007 大阪市東淀川区相川3-10-62 大阪成蹊短期大学 総合生活学科 松岡 依里子 Tel 06-6829-2564 Email matsuoka-e@osaka-seikei.ac.jp		

平成25(2013)年度 春季セミナー						
日程		平成26(2014)年 2月 28日 (金)				
会場		共立女子大学 本館 5F 501講義室				
		東京都千代田区一ツ橋2-2-1				
		地下鉄「神保町」A9出口ななめ前 学士会館向かい				
内容		講演 1 「心理学領域における統計的アプローチの方法」				
		共立女子大学 家政学部 准教授 安藤 嘉奈子氏				
		講演 2 「35年間の統計研究生活と海外調査から」				
		大妻女子大学 副学長 教授 大澤 清二氏				
		事例研究 「伝統素材のマーケティングによる活性化事例研究」				
		共立女子大学 家政学部 教授 藤田 雅夫氏				
タイムスケジュール	10:45～		受付			
	11:00～12:30		講演 1			
	12:30～13:30		昼 食			
	13:30～15:00		講演 2			
	15:10～15:50		事例研究			
	16:00		閉会			
	16:10～16:40		閉会			
その他	問い合わせ先					
	〒101-8437 東京都千代田区一ツ橋2-2-1					
	共立女子大学 家政学部 藤田 雅夫					
		TEL 03-3237-2497				
		FAX 03-3237-2497				
		e-mail mafujita@kyoritsu-wu.ac.jp				

平成26(2014)年度 夏季セミナー									
日程		平成26(2014)年 8月 25日 (月) ・ 26日 (火)							
会場		名古屋学芸大学							
		〒470-0196 愛知県日進市岩崎町竹ノ山57 (0561-75-7111)							
		地下鉄東山線「上社」下車、スクールバスにて15分							
8月25日(月)		公開講演会							
内容		講演 1							
		「被服心理学研究におけるデジタル画像処理 一画像トリミング (アスペクトレシオ)							
		・ 色彩・ダイナミックレンジ・フォーカシングー」							
		名古屋学芸大学 メディア造形学部 映像メディア学科 教授 瀬口 雅人氏							
		講演 2 「装いと説得」							
		東海学園大学人文学部 准教授 伊藤 君男氏							
		事例研究 「布地の汚れと清潔感の心理的評価に関する要因」							
		名古屋学芸大学 メディア造形学部 ファッション造形学科 助教 鷺津 かの子氏							
タイムスケジュール		12:30～		受付					
		13:00～13:10		挨拶					
		13:10～14:30		講演 1					
		14:50～16:10		講演 2					
		16:20～16:50		事例研究					
		17:00～17:40		定例部会					
		18:00～19:40		情報交換会					

平成26(2014)年度 春季セミナー							
日程	平成27(2015)年 2月 28日 (土)						
会場	東京工業大学キャンパス・イノベーションセンター 5F 508A・B 東京都港区芝浦 3-3-6 03-5440-9020						
	J R 田町駅芝浦口から右方向の階段をおりてすぐ、徒歩1分 都営地下鉄浅草線・三田線 三田駅から徒歩5分						
内容	講演 1 「小売業の変遷と今後の展望」 実践女子大学 生活科学部 准教授 大川 知子氏						
	講演 2 「IT の進化、社会の変化、リサーチの革新」 (株)インテージ FMCG 事業本部 副本部長 村上 清幸氏						
タイムスケジュール	12:00～ 受付 12:40～12:50 開会挨拶 12:50～14:20 講演 1 14:20～14:40 休憩 14:40～16:10 講演 2 16:10 閉会 ～17:00 役員会						
その他	問い合わせ先 〒101-8437 千代田区一ツ橋 2-2-1 共立女子大学 家政学部 被服行動研究室 藤田 雅夫 Tel 03-3237-2497 Fax 03-3237-2688 E-mail mafujita@kyoritsu-wu.ac.jp						

8月26日（火）	見学会								
内容		徳川美術館「尾張徳川家の染色品」							
		学芸員 加藤 祥平氏							
		名古屋友禅「名古屋友禅解説」							
		名古屋友禅伝統工芸士 堀部 満久氏							
タイムスケジュール	9:30		徳川園集合	名古屋市東区徳川町（市バス	名古屋から20分、栄から15分）				
	9:30～10:00		徳川園散策						
	10:00～10:40		徳川美術館						
	10:40～11:40		美術館展示見学						
	11:40～12:30		聞香体験						
	12:30～13:30		昼食（徳川美術館内宝善亭）						
	14:00～16:00		名古屋友禅「堀部工房」〒451-0074	名古屋市西区万代町1-28					
			体験実習（絹素材）						
その他		問い合わせ先							
		〒467-8610 名古屋市瑞穂区汐路町3-40							
		名古屋女子大学 短期大学部 原田 妙子							
		TEL 052-852-9482							
		E-mail harada@nagoya-wu.ac.jp							



平成27(2015)年度 夏季セミナー									
日程		平成27(2015)年 8月 25日(火)～ 26日(水)							
会場		学校法人中国学園 中国学園大学・中国短期大学 1号館 1101教室 〒701-0197 岡山市北区庭瀬83 JR岡山駅より在来線山陽本線各停で2駅目庭瀬駅下車 徒歩15分 岡山駅西口からタクシーで約20分							
8月25日(火) 公開講演会									
内容		講演1「身体をめぐる不安」 梶山女学園大学 教授 羽成 隆司氏 講演2「ストレス対処としての被服行動」 川崎医療福祉大学 客員教授 金光 義弘氏 講演 3「世界のジーンズ,日本のジーンズ」 倉敷ファッション研究所 所長 吉村 恒夫氏							
タイムスケジュール		13：00 ～ 14：20		講演 1					
		14：35 ～ 15：55		講演 2					
		16：10 ～ 17：20		講演 3					
		17：30 ～ 18：00		定例部会					
		18：30 ～ 20：00		情報交流会					
8 月 26 日(水) 見学会									
内容		ジーンズと学生服の街、児島地区を貸切バスにて移動しながら見学							
タイムスケジュール		8:30		岡山駅 西口（ANA ホテル前）集合					
		9：30 ～ 10：15		児島学生服資料館 見学					
		10：30 ～ 12：00		高田織物 工場、ショップの見学					
		12：20 ～ 13：30		せとうち児島ホテル					
		13：45 ～ 14：30		倉敷帆布 工場、ギャラリーの見学					
		15:30		岡山駅 西口解散					
その他		問い合わせ先 〒701-0197 岡山市北区庭瀬 83 中国短期大学 総合生活学科 宇野 保子 Tel 086-229-0153 E-mail yuno@cjc.ac.jp							

平成27(2015)年度 春季セミナー							
日程	平成28(2016)年 3月 5日 (土)						
会場	共立女子大学 本館 5F 206講義室 東京都千代田区一ツ橋2-2-1 地下鉄「神保町」A9出口ななめ前 学士会館向かい						
内容	講演 1 「衣生活行動を“記録”から読み解く」 大妻女子大学 家政学部 被服学科 准教授 内田 直子氏 講演 2 「視聴行動の質的研究と量的データ」 成城大学 文芸学部 マスコミュニケーション学科 教授 南 保輔氏						
タイムスケジュール	13 : 00～ 受付 13 : 30～13 : 40 開会挨拶 13 : 40～15 : 10 講演 1 15 : 10～15 : 30 休憩 15 : 30～17 : 00 講演 2 17:00 閉会						
その他	問い合わせ先 〒101-8437 千代田区一ツ橋2-2-1 共立女子大学 家政学部 被服行動研究室 藤田 雅夫 TEL 03-3237-2497 FAX 03-3237-2688 E-mail mafujita@kyoritsu-wu.ac.jp						

平成28年度被服学関係部会合同夏季セミナープログラム

被服整理学部会		被服材料学部会		被服心理学部会	
8月29日（月）					
12：30～		総合受付			
13：20～13：25		開会挨拶		開会挨拶	
部会企画講演会					
13：25～14：25		日本と海外の衣料用洗剤のトレンド ライオン株式会社 ファブリックケア研究所 大野 龍氏		綿素材の特徴を生かした機能加工 富士紡ホールディングス株式会社 阿部 哲氏	
14：25～15：25		ドライクリーニングの現状報告 全国クリーニング生活衛生同業組合連合会 クリーニング総合研究所 小野雅啓氏		好かれる人とは何か？～心理学と美容事情から考える～ 美容ライター・ビューティープランナー 梅野利奈氏	
15：25～15：45		ドライクリーニングの現状報告 全国クリーニング生活衛生同業組合連合会 クリーニング総合研究所 小野雅啓氏		日本の衣料品のリサイクルの現状とその課題 京都工芸繊維大学 木村照夫氏	
15：45～16：45		染色・仕上げ加工におけるファインパブルの利用 東京都立産業技術研究センター 多摩テクノプラザ 榎本一郎氏		最新ファッション動向と消費者心理 株式会社幻冬舎 片山裕美氏	
16：50～17：50		休憩（コーヒーブレイク）			
17：50～18：50		被服科学の過去から現在、未来へ向けて 実践女子大学 城島栄一郎氏		「ISO/TC133について」―衣服サイズ表記および3D CADの動向― 日本アパレル工業技術研究会 知久幹夫氏	
8月30日（火）					
公開講演会					
9：30～10：00		都市のインテリア ～居続けたいくなるキャンパスを目指して～		実践女子大学 高田典夫氏	
10：10～11：00		食の変貌と家政学との係り		実践女子大学 田島 眞氏	
11：10～12：00		超高齢社会における家政学を住居学を通して考える		和洋女子大学 中島明子氏	
12：10～13：30		全体情報交換会			
13：30～14：00		被服整理学部会総会		被服材料学部会総会	
若手講演会					
14：00～14：30		酵素の繊維染色加工への応用 和洋女子大学 長嶋直子氏		黒色織物の視覚的風合いに関する客観的評価方法 信州大学 丸 弘樹氏	
14：30～14：50		日本人の“衣服における季節感表現”に関する研究 共立女子大学 金井光代氏			
見学会事前レクチャー					
14：40～15：00		ファッションビルのマーケティング戦略―渋谷地区を事例に―		共立女子大学 藤田雅夫氏	
3部会合同 事例報告― 教育と授業の工夫					
15：00～15：20		企業とのコラボレーション―消費者調査からスポーツウェアのデザイン・製品まで―		昭和女子大学 猪又美栄子氏	
15：20～15：40		地域連携実践プロジェクトに期待する学びと課題		京都光華女子大学短期大学部 大澤香奈子氏	
15：40～16：00		被服領域の教育 ～被服整理学分野の研究成果をどう活用するか～		茨城大学 木村美智子氏	
16：00～16：50		質疑応答			
キャンパスツアー					
17：00～18：00		120周年記念館見学・解説		実践女子大学 高田典夫氏	
8月31日（水）					
見学会					
コース1 11：00～14：00		テキスタイルツアー 株式会社 布 テキスタイルデザイナー、東京造形大学教授 須藤玲子氏 マンダリン オリエンタル 東京 38F オリエンタルラウンジ アフタヌーンティー付 (定員15名)			
コース2 10：00～17：00		「織り」の可能性を探る 文化・ファッションテキスタイル研究所とホットマン(株)の工場見学 新宿より往復バス（昼食付き） (定員40名)			
コース3 10：00～14：00		染めの街散策と型染め体験（昼食付き） (定員14名)			
コース4 10：00～14：00		渋谷109総支配人小西郁良氏による講演と店舗見学ツアー（昼食付き） (定員30名)			

プログラムに一部変更があります。

平成28(2016)年度 春季セミナー									
日程	平成29(2017)年 3月 4日 (土)								
会場	神戸学院大学 ポートアイランドキャンパス B号館 2F 209教室 神戸市中央区港島1-1-3 神戸新交通ポートライナー「みなとじま駅」下車，西へ徒歩約6分								
内容	講演1「化粧するところ」 東亜大学 芸術学部 准教授 平松 隆円氏 講演2「テキストデータをどう分析するか?～学生のレポート分析を事例として～」 神戸学院大学 現代社会学部 准教授 日高 謙一氏 事例報告「キャリアにつなげるファッション教育 ～オーストラリアのエンゲージドラーニングから被服心理学を考える～」 大阪成蹊短期大学 生活デザイン学科 准教授 松岡 依里子氏								
タイムスケジュール	12:30～ 受付開始 13:00～13:10 開会挨拶 13:10～14:20 講演1 14:20～14:30 休憩 14:30～15:40 講演2 15:40～15:50 休憩 15:50～16:20 事例報告 16:20 閉会 16:30～17:00 定例部会								
その他	問い合わせ先 〒650-8586 神戸市中央区港島1-1-3 神戸学院大学 経営学部 経営学科 辻 幸恵 FAX 078-871-1121 E-mail yukiecat@vega.ocn.ne.jp								

平成29(2017)年度 夏季セミナー									
日程		平成29(2017)年 8月 24日（木）～ 25日（金）							
会場		学校法人三島学園 東北生活文化大学・東北生活文化大学短期大学部 百周年記念棟 2 階会議室 〒981-8585 宮城県仙台市泉区虹の丘一丁目 18 番地の 2 仙台駅からバスで約 30 分 西口バスプール 4 番乗り場 「虹の丘団地行」三島学園東北生活文化大学・高校前下車（片道 310 円）							
8 月 24 日（木） 公開講演会									
内容		講演 1 「日本の古着循環と生活者の処分意識」 尚絅学院大学 総合人間科学部 環境構想学科 教授 玉田 真紀氏							
		講演 2 「色彩と QOL」 色と顔色、彩色ケア（色カルタ・クオリアゲーム®） 日本パーソナルカラー協会理事・彩色ケア色カルタ研究所主宰 三浦 南海子氏							
		講演 3 「被服から考える対人認知の心理学」 京都大学 白眉センター 特定准教授 米田 英嗣氏							
タイムスケジュール		13：00～14：20		講演 1					
		14：35～15：55		講演 2					
		16：10～17：20		講演 3					
		17：30～18：00		定例部会					
		18：30～20：00		情報交換会					
8 月 25 日（金） 見学会									
内容		みやぎの防災・震災学習⑨ みらいサポート石巻「AR アプリ活用等による災害学習」							
タイムスケジュール		8:30～		J R 仙台駅東口貸切バスプール（駐車場）集合・出発					
		10：00～11：00		①震災の語り部（石巻市内）映像の視聴、語り部など					
		11：00～12：20		②車中案内 貸切バスにて魚市場など車中にて案内、 下車案内も一部あり					
		12：30～		③市内昼食					
		13：30～14：30		④防災まちあるき					
		16:00～		J R 仙台駅東口貸切バスプール（駐車場）到着・解散					
その他		問い合わせ先							
		〒981-8585 仙台市泉区虹の丘 1-18-2							
		東北生活文化大学 家政学部家政学科 小野寺 美和							
		Tel：022-272-7514(内線 214)							
		Fax：022-346-1257							
		E-mail：miwa@mishima.ac.jp							

平成29(2017)年度 春季セミナー								
日程	平成30(2018)年 3月 3日 (土)							
会場	名古屋女子大学・名古屋女子大学短期大学部 南 3 号館 111 教室 名古屋市瑞穂区汐路町 3-40 名古屋市営地下鉄桜通線 瑞穂区役所下車 徒歩 5 分							
内容	講演1「色彩効用の可能性と限界」 東海学園大学人文学部教授(心理学科長) (一社)日本色彩学会会長、博士(心理学) 高橋 晋也氏 講演2「消費者の心理と企業のマーケティング」 愛知学泉大学 現代マネジメント学部教授 濱本 幸宏氏 事例報告「感性評価とファッションデザイン」 名古屋女子大学短期大学部准教授 小田 久美子氏							
タイムスケジュール	12:30～ 受付開始 13:00～13:10 開会あいさつ 13:10～14:20 講演 1 14:30～15:40 講演 2 15:40～15:50 休憩 15:50～16:20 事例報告 16:20 閉会							
その他	問い合わせ先 〒467-8610 名古屋市瑞穂区汐路町 3-40 名古屋女子大学短期大学部 原田 妙子 Tel 052-852-1111 Fax 052-852-7470 E-mail harada@nagoya-wu.ac.jp							

平成30(2018)年度 夏季セミナー									
日程		平成30(2018)年 8月 27日 (月) ～28日 (火)							
会場		共立女子大学 本館 1010 号講義室 〒101-8437 東京都千代田区一ツ橋 2-2-1							
		東京メトロ半蔵門線・都営地下鉄三田線・都営地下鉄新宿線 「神保町」駅下車 A8 出口から徒歩 1 分							
8 月 27 日 (月) 公開講演会									
内容		講演 1「被服の消費者教育を考える」 お茶の水女子大学 基幹研究院 人間科学系 准教授 斎藤 悦子氏							
		講演 2「読者アンケートからみるファッション誌の消費者への影響」 講談社第二事業局女性コンテンツ二部 VIVI 編集長 岩田 俊氏							
		事例報告「舞台衣装のデザイン・制作-オペラとバレエ公演の衣装-」 東京家政学院大学 准教授 富田 弘美氏							
タイムスケジュール		12：30～		受付					
		13：00～14：20		講演 1					
		14：35～15：55		講演 2					
		16：10～16：50		事例報告					
		17：00～17：30		定例部会					
		18：00～20：00		情報交換会					
8 月 28 日 (火) 公開講演会・見学会									
内容		講演 3「消費者心理と企業のマーケティング戦略」 共立女子大学 教授 藤田 雅夫氏							
		事例報告「動作の分類からみた 3 歳児の着脱の特徴」 東京学芸大学大学院 高橋 美登梨氏							
タイムスケジュール		9：30～		受付					
		10：00～11：20		講演 3					
		11：30～12：10		事例報告					
		12：10～13：10		昼食（お弁当）					
		13：15～14：15		移動（電車：自己負担）					
		14：30～16：00		花王ミュージアム見学 (JR 総武線 亀戸駅北口より徒歩 15 分)					
		16:10		解散 (周辺にスカイツリー、たばこと塩のミュージアム等有り)					
その他		問い合わせ先 目白大学 社会学部社会情報学科 大枝 近子 Tel 03-5996-3139 Fax 03-5996-30 E-mail: ooeda@mejiro.ac.jp							

平成30(2018)年度	春季セミナー								
日程	平成31(2019)年 2月 23日 (土)								
会場	キャンパスプラザ京都 第4 講義室								
	京都市下京区西洞院通塩小路下る東塩小路町 939								
	近鉄京都線、JR各線「京都駅」下車 徒歩 5 分								
内容	講演1 「ユニバーサルデザインの実践と研究～色彩、医療、ファッションの視点から」								
	兵庫医療大学 社会学連携推進機構 コーディネーター								
	薬学部 研究員・非常勤講師 色彩指導者（日本色彩研究所認定第 391 号） 石崎 真紀子氏								
	講演2 「観光都市京都が取り組むユニバーサルデザイン（仮）」								
	京都市保健福祉局 障害保健福祉推進室係長 本田 耕志氏								
	事例報告「災害時の高視認性安全服の役割と蓄光素材布を用いた衣服設計」								
	甲南女子大学講師 小野寺 美和氏								
タイムスケジュール	12：30～	受付開始							
	13：00～13：10	開会あいさつ							
	13：10～14：20	講演 1							
	14：30～15：40	講演 2							
	15：50～16：20	事例報告							
	16：20	閉会							
	16：30～17：00	定例部会							
その他	問い合わせ先								
	〒654-8585 神戸市須磨区東須磨青山 2-1								
	神戸女子大学家政学部 十一 玲子								
	Tel 078-737-2422								
	Fax 同上								
	E-mail reiko-j@suma.kobe-wu.ac.jp								



令和元(2019)年度 夏季セミナー									
日程		令和元(2019)年 8月 26日(月) ～ 27日(火)							
会場		富山大学(五福キャンパス) 人間発達科学部 大会議室 (B1 Zone 2 階) 〒930-8555 富山市五福 3190 JR 富山駅から市内電車「大学前」行で約 20 分大学前下車(片道 200 円), 正門より 27							
8 月 26 日(月) 公開講演会									
内容		講演 1「アパレルの品質に求められるもの 一被服心理学の品質への関わりに ふれながらー」 (一社)日本衣料管理協会 会長 小林 茂雄氏 講演 2「アパレルにおけるファスニング製品」 YKK 株式会社 ファスニング事業本部 小野 芳行氏 講演 3「スペインマドリドにおける日本の美術教育の受け止め方」 富山大学 人間発達科学部 教授 隅 敦氏 事例報告「アパレル分野における色彩調和」 椋山女学園大学 教授 石原久代氏							
タイムスケジュール		12:00 ～ 受付 12:40 ～ 13:50 講演 1 14:00 ～ 15:10 講演 2 15:20 ～ 16:30 講演 3 16:40 ～ 17:10 事例報告 17:10 ～ 17:40 定例部会 18:20 ～ 20:00 情報交換会							
8 月 27 日(火) 見学会									
タイムスケジュール		9:30 JR 富山駅 北口 集合・出発 貸切バス(駐車場) 10:30 ～ 12:00 (株)能作、工場見学(富山県高岡市) 12:00 ～ カフェ(IMONO KITCHEN)にてランチ(弁当) 13:30 ～ 15:00 (株)ゴールドウイン見学(富山県小矢部市) 16:00 JR 富山駅 南口 到着・解散							
その他		問い合わせ先 富山大学 人間発達科学部 孫 珠熙 Tel 076-445-6344 Fax 076-445-6264 E-mail sohn@edu.u-toyama.ac.jp							

令和元(2019)年度	春季セミナー（中止）						
日程	令和2(2020)年 2月 29日（土）						
会場	東京工業大学 キャンパス・イノベーションセンター 509A・B						
	東京都港区芝浦3-3-6						
	JR田町駅芝浦口から右方向の階段をおりてすぐ徒歩1分						
	都営地下鉄浅草線・三田線 三田駅から徒歩5分						
内容	講演1「オムニチャネル環境における消費者心理とショールーミング」						
	大妻女子大学家政学部被服学科 准教授 吉井健氏						
	講演2「駅ビルでの買物行動研究から見た現代の消費者心理」						
	(株)ジェイアール東日本企画 駅消費研究センター 研究員 松本 阿礼氏						
	事例報告「ビジネス交渉の理論・実務と印象管理」						
	ビジネススタイリスト® 建部 茂樹氏						
タイムスケジュール	12:30～	受付開始					
	13:10～14:20	講演1					
	14:30～15:40	講演2					
	15:50～16:20	事例報告					
その他	問い合わせ先						
	大妻女子大学 家政学部 被服学科 内田 直子						
	Te1 03-5275-6299(直通)						
	Fax 03-5275-6932(共同)						
	E-mail naoko.uchida@otsuma.ac.jp						

令和2(2020)年度	春季セミナー									
日程	令和3(2021)年	2月	27日	(土)						
開催方法	オンライン									
内容	講演1「ファッションと着物一産学連携の取り組みを通してー」									
	共立女子大学家政学部被服学科 教授 宮武 恵子氏									
	講演2「ファッションとサステナビリティ (SDGs) ー教育・研究・社会活動の事例を通じてー」									
	神戸芸術工科大学 芸術工学部 教授 見寺 貞子氏									
タイムスケジュール	12:30～		受付開始							
	13:30～14:20		講演1							
	14:30～15:40		講演2							
その他	問い合わせ先									
	国際ファッション専門職大学 松岡 依里子									
	E-mail matsuka.eriko@piif.ac.jp									



令和3(2021)年度 夏季セミナー 「持続可能な社会」実現に向けた研究と教育									
日程	令和3(2021)年 8月 25日 (水)								
開催方法	オンライン (Zoom利用)								
内容	講演1 「知覚の心理学」								
	九州大学芸術工学研究院 教授 伊藤 裕之氏								
	講演2 「デジタル・ネットワーク時代における研究教育」								
	一般社団法人授業目的公衆送信補償金等管理協会 理事長								
	公益社団法人日本複製権センター 理事長 土肥 一史氏								
	講演3 「オンラインによる久留米絨工場見学と講演」								
	下川織物 下川 強蔵氏								
	事例報告「服飾ワークショップを通して育まれる学生の感性と心の交流」								
	九州産業大学 加来 卯子氏								
	事例報告2 「循環型社会形成に向けた職場における制服について」								
	福岡女子大学 庄山 茂子氏								
タイムスケジュール	9:00 開会挨拶								
	9:10～10:20 講演1								
	10:35～11:45 講演2								
	13:00～14:00 講演3								
	14:15～14:45 事例報告1								
	14:45～15:15 事例報告2								
	15:15 閉会挨拶								
	15:30～16:00 定例部会								
その他	問い合わせ先								
	福岡女子大学 庄山 茂子								
	Tel 092-692-3121								
	E-mail shoyama@fwu.ac.jp								
	九州産業大学 加来 卯子								
	Tel 092-673-5744								
	E-mail kaku@ip.kyusan-u.ac.jp								

令和3(2021)年度 春季セミナー 「暮らしの中の消費者心理」									
日程		令和4(2022)年 2月 26日 (土)							
開催方法		オンライン (Zoom)							
内容		講演1 「デジタル環境における消費者心理とファッションマーケティング」 大妻女子大学家政学部被服学科 准教授 吉井 健氏							
		講演2 「駅ビルでの買物行動研究から見た現代の消費者心理」 (株) ジェイアール東日本企画 駅消費研究センター 研究員 松本 阿礼氏							
		事例報告「ビジネス交渉の理論・実務と印象管理」 日本郵便株式会社関東支社長・ビジネススタイリスト® 建部 茂樹氏							
タイムスケジュール		13:00		開会の挨拶					
		13:10～14:20		講演 1					
		14:30～15:40		講演 2					
		15:50～16:20		事例報告					
		16:20		閉会の挨拶					
		16:30～		定例部会					
その他		問い合わせ先							
		大妻女子大学 家政学部 被服学科 内田 直子							
		Tel 03-5275-6299(直通)							
		E-mail naoko.uchida@otsuma.ac.jp							

令和4(2022)年度 夏季セミナー 新しい価値の創造 ―装いの追求―							
日程	令和4(2022)年 8月 23日 (火)						
開催方法	オンライン (Zoom 利用)						
内容	講演1 「行動の心理学」						
	広島大学大学院人間社会科学研究科 教授 今川 真治 氏						
	講演2 「独創的なテキスタイルを求めて」						
	株式会社美希刺繍工芸 (福山市) 会長 苗代 次郎 氏						
	事例報告1 「衣服のアップサイクル活動の実践と学習効果」						
	四天王寺大学短期大学部ライフデザイン学科 准教授 谷 明日香 氏						
	事例報告2 「ギフトに関する風習と実態―日中比較―」						
	神戸学院大学大学院経済学研究科博士後期課程 王 吉吉 氏						
タイムスケジュール	10:30	開会挨拶					
	10:40～11:50	講演1					
	11:50～12:20	講演2					
	13:30～14:30	定例部会					
	14:45～15:15	事例報告1					
	15:25～15:55	事例報告2					
	15:55	閉会挨拶					

その他	問い合わせ先						
	広島大学 村上 かおり						
	E-mail : murakao@hiroshima-u.ac.jp Tel/Fax : 082-424-6858						
	神戸女子大学 十一 玲子						
	E-mail : reiko-j@suma.kobe-wu.ac.jp Tel/Fax : 078-737-2422						

令和4(2022)年度 公開春季セミナー 「新しい装いの創造」									
日程	令和5(2023)年 2月 27日 (月)								
開催方法	オンライン (Zoom)								
内容	講演1 「国内アパレル産業におけるアスレジャーの成長戦略とその有効性」 武庫川女子大学 健康スポーツ科学部 准教授 穂原 寿識 氏								
	講演2 「ハンドメイド業界の現状と課題」 (株)コムースタイル手作り市場プロジェクト プロジェクトリーダー 神戸学院大学 現代社会学部 非常勤講師 田中 健一 氏								
	事例報告 岐阜市立女子短期大学 生活デザイン学科 ファッション専修 教授 福村 愛美 氏								
タイムスケジュール	13:00 開会の挨拶								
	13:10～14:20 講演 1								
	14:30～15:40 講演 2								
	15:50～16:20 事例報告								
	16:20 閉会の挨拶								
	16:30 定例部会								
その他	問い合わせ先 神戸女子大学家政学部 十一 玲子 Tel/Fax 078-737-2422 E-mail reiko-j@suma.kobe-wu.ac.jp								
	神戸学院大学 経営学部 経営学科 辻 幸恵 E-mail yukiecat@vega.ocn.ne.jp								

令和 5(2023)年度	令和 5 年度 40 周年記念公開夏季セミナー	
日程	” 衣 ” 研究における隣接学問からのアプローチ ―被服学の未来を考える― 令和 5(2023)年 8 月 29 日 (火)	
開催方法	オンライン (Zoom 利用)	大妻女子大学
内容	講演 1 「令和次郎と衣生活の研究」 福島学院大学マネジメント学部 教授 黒石いずみ 氏 講演 2 「戦後日本社会の着物文化―作る、買う、借りる」 大妻女子大学家政学部 専任講師 小形道正 氏 講演 3 「衣服展での着せ付けと修復事例紹介」 (公財) 京都服飾文化研究財団 (KCI) レストアラー 上山尚子 氏 事例報告「ファッション分野における今後の消費者調査」 共立女子大学共通教育センター 教授 藤田雅夫 氏	
タイムスケジュール	10:30 10:40～11:50 11:50～12:20 13:30～14:30 14:45～15:15 15:25～15:55 15:55	開会挨拶 講演 1 講演 2 定例部会 事例報告 1 事例報告 2 閉会挨拶
その他	問い合わせ先 大妻女子大学	内田 直子 E-mail naoko.uchida@otsuma.ac.jp

令和 5(2023)年度 公開春季セミナー 「選好の心理と消費者行動」

主催：一般社団法人日本家政学会被服心理学部会

日時:2024 年 2 月 26 日 (月) 13:00~16:30

開催方法：オンライン (Zoom) ※申込者に後日 URL を配布いたします。

内容：講演 1 「消費者の選好とマーケティング」

中部大学経営情報学部 教授 清水 真氏

講演 2 「選好形成の心理学」

梶山女学園大学人間関係学部 准教授 布井雅人氏

事例報告「アパレル購買行動に関与する要因」

梶山女学園大学非常勤講師 加藤千穂氏

その他 問い合わせ先： 梶山女学園大学 生活科学部 石原久代

E-mail:ishihara@sugiyama-u.ac.jp

令和 6(2024)年度 公開夏季セミナー 「フェアトレードとファッション」(予定)

主催：一般社団法人日本家政学会被服心理学部会

日時:2024 年 8 月 26 日 (月) 13:00~16:30 受付 12:30~

会場：神戸学院大学 ポートアイランド第 1 キャンパス

〒650-8586 兵庫県神戸市中央区港島 1-1-3

JR 三ノ宮、阪急・阪神線神戸三宮からポータライナーに乗り換え、

ポータライナー「みなとじま」駅下車徒歩 5 分

講演 1 「未定」 (有) シサム工房 取締役 人見とも子氏

講演 2 「未定」 大坂国際大学 岸脇誠氏

研究報告 「未定」 文化学園服飾博物館 金井光代氏

その他 問い合わせ先：神戸学院大学 経営学部 辻幸恵

E-mail:yukie213@kobegakuin.ac.jp

部会紹介

被服心理学部会

被服心理学部会とは

日本家政学会の中のひとつの部会です

1984年に創立しました

構成メンバーは大学（教員・院生・大学生）や
企業に所属する人、あるいは
被服心理に興味がある人です

部会からのメッセージ 1 歴史と位置づけ

本部会は、1984年初代部会長、故田中道一先生をはじめ、諸先生方のご尽力により発足いたしました。

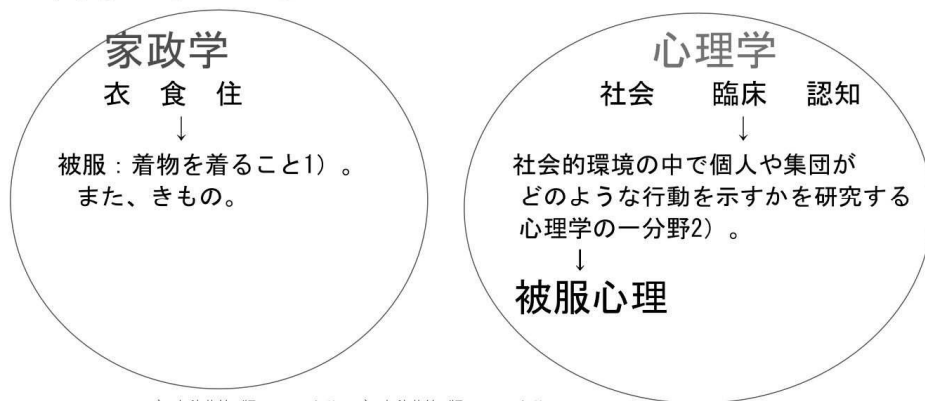
1980年代なかばの当時は、被服心理学が被服学の新しい分野として、アメリカからわが国へ導入されて間もない頃でした。

部会からのメッセージ 1 歴史と位置づけ

被服に対するニーズは実用的な側面から心理的、社会的、審美的な側面、すなわちモノからココロへ移ってきていました。

そこで被服心理学では、被服を社会科学・人文科学の視点から取り扱うことになる被服の心理的、社会的、審美的機能に関する教育、研究をその学問領域として位置づけています。

研究分野



1) 広辞苑第7版 p.2182より 2) 広辞苑第7版 p.1360より

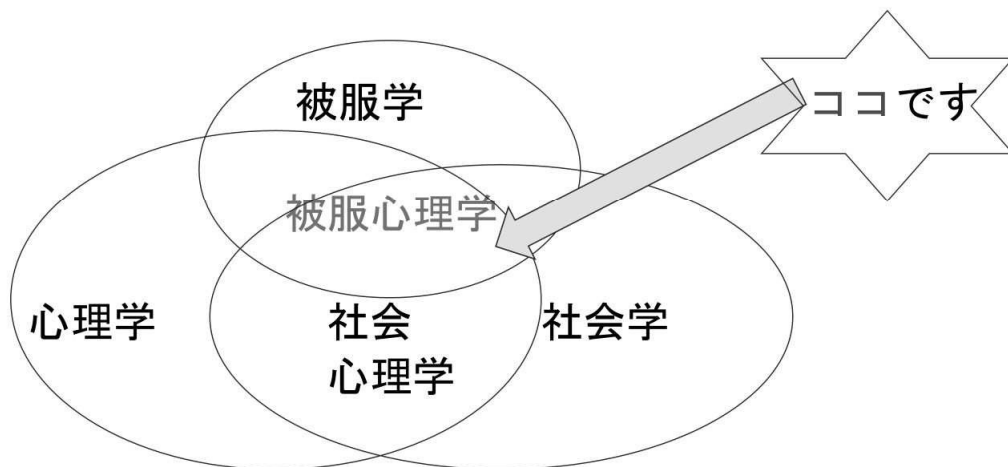
家政学＋心理学？？？
だけではない

被服心理部会は単純に
両方の学問領域に関わる
だけではありません。

もっとワクワクする
ような研究をしています。



被服心理学の隣接学問領域



中川早苗編（2004）『新版 被服心理学』日本繊維機械学会、p. 3、図0-2を引用

部会からのメッセージ 2 世の中の流れ

その後の日本は、バブルの崩壊、経済の低迷、東日本大震災、原発問題と社会の大きな変動の中で、大学も教育の質保証が求められ、課題が山積し、特に被服学全体のおかれている立場は厳しいものがあります。IT化がますます進展する中で、人間不在とも思われるような状況が加速しています。

家政学が人のココロを充足する21世紀の真の健康と福祉（well-being）を追求していく中で、被服心理学の重要性は、創立当時のまま多方面で切望されているのを感じます。

部会からのメッセージ 3 目的

被服は全ての人にとって毎日のよりよい人間らしい生活を支える重要なものであり、同時に不易流行の最たるものでもあります。

既存の学問体系や社会の常識に固執することなく、常に時代の先を見通す学問として人々の役に立つことを第一と考え、身近な被服を題材に不易流行の被服心理学を究めていきたいと思ひます。

被服心理学に寄せられるこれらの課題に対して、私たちは今後さらに研鑽を積み、教育に研究に積極的にアプローチしていきたいと思ひます。



(2013.7.8) ホームページより抜粋

とてもアクティブ！

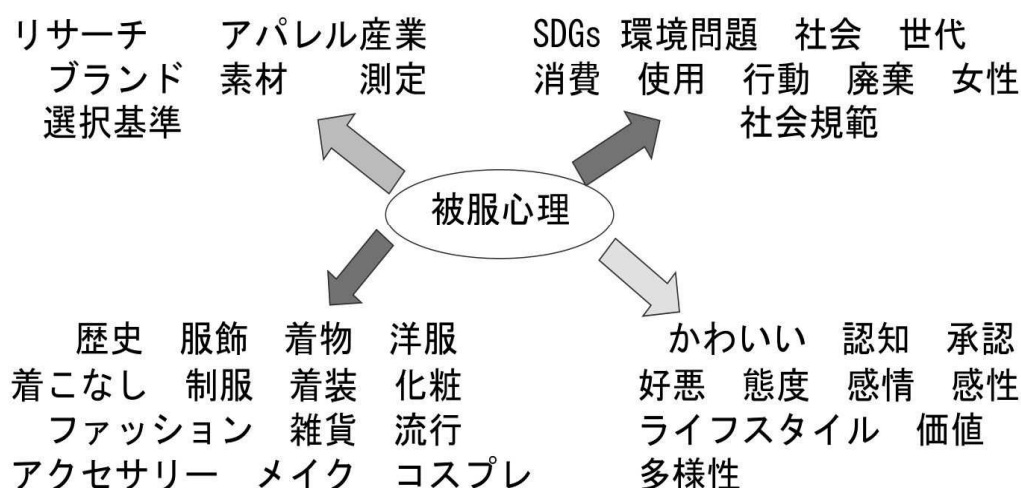


被服行動の分析は、

「パーソナリティ理論、社会的態度、
ライフスタイル論、対人認知、役割理論、
集合行動論、社会規範」などのたくさんの
理論が適用されます

中川早苗編（2004）『新版 被服心理学』日本繊維機械学会、p. 3 より引用

研究課題、興味・関心分野のひろがり



部会の主な活動は

年に2回のセミナー（春と夏）

春は2月末～3月、夏は8月下旬

各セミナーでは、テーマを決め
講師を招いて2～3つの講演を実施

最近のセミナーでは

2021年度夏季セミナー（2021年8月25日オンライン開催）
持続可能な社会づくりに向けて被服心理学の研究と教育に
必要な情報を盛り込んだ講演と伝統工芸（久留米絣）の
新しい取り組みを紹介しました。

講演テーマは以下の2つでした。

- 1) 知覚の心理学
- 2) デジタル・ネットワーク時代における研究教育



最近のセミナーでは

2022年公開度春季セミナー（2023年2月27日オンライン開催）
「新しい装いの創造」というテーマで実施しま
した。

講演テーマは以下の2つでした。

- 1) 国内アパレル産業における明日レジャーの
成長戦略とその有効性
- 2) ハンドメイド業界の現状と課題



最近のセミナーでは

2023年令和5年度 40周年記念公開夏季セミナー

(2023年8月29日オンライン開催)

「“衣” 研究における隣接学問からの
アプローチ」というテーマで実施しました。
講演テーマは以下の3つでした。



- 1) 今和次郎と衣生活の研究
- 2) 戦後日本社会の着物文化ー作る、買う、借りるー
- 3) 衣装展での着せ付けと修復事例

講演の他にも セミナーでは

1) 事例研究

身近なテーマや関心事項を選んで
皆さまに事例を報告

(例)

感性評価とファッションデザイン (2018年)

災害時の高視認性安全服の役割と蓄光素材布
を用いた衣服設計 (2019年)



2017年8月24日セミナーの様子

他にも

2) 見学会

2019年：富山県（株）能作、（株）ゴールドウイン

2021年：久留米絣工場見学（下川織物）オンライン



（株）能作玄関



児島・高田学生服資料館（岡山県）

セミナー以外にも

1) ホームページの充実

<http://clothing-psychology.c.ooco.jp/registration.html>

2) 日本家政学会年次大会での発表

部会には学生も参加できます

公開講座などには
学生参加は無料に
なります。
この機会に被服心
理と一緒に
研究しませんか



入会申込の方法

原則メールにて受け付けます

<http://clothing-psychology.c.ooco.jp/registration.html>

このホームページを見て下さい。

日本家政学会で検索して下さいでもOKです

入会金は不要
年会費は1000円

本会の会計年度は、4月1日に始まり、翌年3月31日に終わります

1000円

ゆうちょ銀行
00860-3-102428

加入者名
被服心理学部会

申込書送付アドレス

clothing-psychology@nifty.com

こちらまでお願いします

わたしたちと一緒に被服心理の世界を探求してみませんか？

ご入会をお待ち申しております



被服心理学部会部会長

2013 ～ 2014 年度	名古屋学芸大学	石原久代先生
2015 ～ 2016 年度	共立女子大学	藤田雅夫先生
2017 ～ 2018 年度	目白大学	大枝近子先生
2019 ～ 2020 年度	神戸女子大学	十一玲子先生
2021 ～ 2022 年度	大妻女子大学	内田直子先生
2023 年度 ～	神戸学院大学	辻 幸恵先生

(所属は部会長就任時)

編集後記

この度は、コロナ禍をはさんだ 10 年になりました。世の中の動きに伴い、変化することもございます。部会の運営も対面から ZOOM になり、これまでの様式とは異なっておりました。そのような中でむかえた 40 周年でございます。今年から日本家政学会のホームページには各部会の動画も UP されることになりました。内容は前述のとおりでございます。

編集の折にご意見を頂きました諸先生方にはこの場をお借りして感謝申し上げます。また、みなさま、今後も部会の発展のためによりしくお願い申し上げます。

編集担当

内田直子、辻幸恵、原田妙子、
内藤章江、金井光代、村上千代